

第3回筑紫野市事務事業外部評価委員会会議録（要点記録）

【開催日時】 令和6年10月30日（水） 8：55～12：09

【開催場所】 市役所403会議室

【委員出席状況】

《出席委員》 坂本委員、牧野委員、内川委員、二宮委員、西村委員 以上5名

《欠席委員》 中島委員 以上1名

【事務局出席者】 宗貞企画政策部長、中尾企画政策課長
齊田企画政策担当係長、羽野企画政策担当主事、
銀島企画政策担当主任 以上5名

【所管課出席者】

（生活福祉課）川口商工観光課長、武藤商工観光担当係長、脇田商工観光担当主任

【市民傍聴人】 0名

【職員傍聴人】 0名

【会議概要】

1. 開会

事務局の司会により開会

2. 事務連絡

事務局より本日のタイムスケジュールについて説明。

事務局より前回委員会にて要望のあった追加資料について説明。

3. 第2回委員会会議録について

事務局より説明。

委員確認により修正等なし。

4. 議事

(1) 所管課ヒアリング

⑥物産振興補助事業（商工観光課）

所管課による自己紹介及び事業内容の説明

(委員) 成果指標の一つである「ふるさと納税における会員物産品の売上額」の目標値についてだが、令和5年度の実績と比較すると、目標値が低く設定されている。目標値を上げて成果向上を目指してはどうか。

また、物産販売の振興を目指すのであれば、成果向上傾向のあるふるさと納税に注力させたほうが市外への物産品のPR、事業者の売上増、市の歳入増に繋がり、利点が大きいのではないか。

(所管課) 成果指標の目標値については、令和4年度の実績も加味しながら、上方修正した結果の数値となっています。

また本事業では、市内事業者による商品開発の推進、物産振興を目指していますが、開発した商品の販売促進を図っていくうえで、ふるさと納税サイトを活用していきたいと考えています。ポータルサイト内で目を引く商品の開発のため、売れ筋商品の情報共有や開発時の助言等は行っていきたいと思っています。

(会長) ふるさと納税の返礼品はどのポータルサイトに掲載しているのか。また、ポータルサイト内で広告料等を支払うと検索画面の最初に商品情報が表示されるようになっていると思うが、本市ではそういった取組はしているか。

(事務局) 本市では、主要なポータルサイトに返礼品を掲載しています。その中ですべてのサイトではありませんが、広告を打っているサイトがあります。

(会長) 目標値については上方修正をした結果ということだが、現状に合わせ暫時見直しをされたい。ふるさと納税に関しては、主要なサイトには返礼品を掲載しているということに理解した。

(委員) 物産振興会と商工会の繋がりはどのようなものか。

(会長) 下部組織なのか、独立組織なのか、どのような位置づけなのか。

(所管課) 物産振興会の会員は商工会の会員ですが、別組織となっています。ただし、事務については商工会に委託をしています。

(委員) 市から商工会に補助金を出していると思うが、予算書を見ると商工会から物産振興会に補助金が出ている。補助金の二重交付となるのではないか。

(所管課) 商工会には、市が補助金を交付している団体や事業には、二重交付しないように伝えており、その事実はないと認識しております。

(会 長) 市からの補助金の充当先については商工振興対策補助事業の補足資料の中で示してあり、物産振興会への補助金は市の補助金でなく、商工会の会費や県の補助金が充当されており、問題はないと考えられる。

(委 員) 物産振興会に入会することで得られる事業者のメリットはなにか。

(所管課) 団体で商品や店舗をPRし発信力を強めること、連携することで店舗以外の販売の場を設けることができること、商品開発する上での情報共有の場等、より一体となって筑紫野市の物産をPRできると考えており、収益を上げるためだけではない活動のメリットがあります。

(委 員) 商工会全体の会員数から見れば、物産振興会に参入している会員数は限られているがどう分析しているか。

(会 長) 商工会という本来の組織があり、様々な産業別の部会がある中で、物産振興会を独立させている理由はなにか。

(所管課) 商工会の中でも、物産の開発や市ならではの商品のPRに尽力したいという思いのある会員が集まり組織されており、市としても、他市での催事等で参加協力を仰ぐ等、連携が取れています。

会員数については、物産振興会の中でも課題と感じています。要因の一端として、小規模事業者の場合、実店舗の経営があり催事や会議等への参加が難しく入会を躊躇うことが考えられるため、物産振興会では、デジタルツールを使った参加の取組も検討されています。

(会 長) 物産振興会の催事売上報告書の中に、請求手数料2%という項目があるが、会員が催事に参加した場合の売り上げの一部が物産振興会の収益となっているという理解でよいか。

(所管課) その通りです。

(委 員) 支出決算書の繰越金についてだが、次期繰越金がおよそ100万円ある。手数料等、収益がある組織だが、当事業の補助金は必要か。

(所管課) 新型コロナウイルス感染症の影響で、一時期イベントができず、活動が停滞し繰越金が増加した経緯がありますが、当市の物産振興のため、商品開発に伴う視察やデジタルツールを活用したネット販売等の研究・活躍推進のため、今後も市として応援していきたいと考えています。

(委 員) 繰越金を活用して、大きな事業を展開するような動きがあるのか。

(所管課) まだ具体的な動きは見ていませんが、情報発信に課題もあるため、ホームページの見直しやPR広告のブラッシュアップ等の方向で検討されているところです。

(会 長) 商品開発やブランディングの成果が分かりにくい状況であるため、催事

やイベント等もあると思うが、商品開発にもっとパワーをかけていただきたい。

(会 長) 物産振興に係る商品開発について目指すのであれば、成果指標としては、「物産振興会で開発された商品数」等が妥当であると考えているが、どうか。

(所管課) 成果指標を「ふるさと納税における会員物産品の売上額」としたのは、平成27年の外部評価でご指摘をいただき変更した経緯がございます。今回の外部評価で変更を検討するという形でよろしいですか。

(会 長) 当時は商品開発や販売、会員増加について、ふるさと納税を中心に振興してはどうかという考えで指標を設定したが、ふるさと納税の返礼品提供事業者が物産振興会の会員増加に繋がっていないため、目的と手段の再設定と成果指標の変更について調査・研究されたい。

(会 長) 物産振興会の催事売上報告書では、市役所庁内にある販売所の売上実績が高いようだが、物産振興会に所属している事業者の商品のみ販売しているのか。

(所管課) その通りです。物産振興会や商工会に関心を持ってもらい、会員増につなげるために、出店事業者は物産振興会の会員のみとなっています。

(会 長) 公平性の観点から出店の間口を広げることも検討が必要ではないか。組織の中でどのような位置づけがよいか考える必要がある。

(所管課) 物産振興会では、参加してもらうことで同じ方向を向いて商品販売や地域の活性化を目指していきたいという思いがあり、それを市としても応援していきたいと考えています。

(会 長) 市内のふるさと納税のお礼品提供事業者は何社あるか。

(事務局) 令和6年3月末現在、59社登録しています。

(会 長) 物産振興会の会員数が15社だが、ふるさと納税に参加して物産振興会に参加しない要因はどのようなことが考えられるか。

(所管課) 要因の一つとして、会員に対する入会金や年会費も参加を躊躇われる部分ではないかと考えられますが、ふるさと納税の参加者を商工会や物産振興会の会員として勧誘してはどうかという相談をすることは検討できると思います。

(会 長) 税金をつかって補助する以上、市を代表する物産振興の団体であるということが妥当であるため、より多くの事業者が参加できるよう、会員数の増加を目指されたい。

(委 員) 貸借対照表にある、未払金とは、退会した会員の会費のことか。

(所管課) その通りです。

(会 長) 物産振興会のホームページにも、観光協会のホームページにも、地域の商品が異なる形式で紹介されているが、情報の統一はなされないのか。

(所管課) それぞれの組織に所属している会員が、部会や商品にあわせて情報を発信している状況です。

(会 長) 他市では、物産に関する情報はすべて観光協会が担う等、機能重複しないように業務が統合されている場合が多い。市が補助をしている事業であれば、少なくとも情報の連携が必要と考える。

(委 員) そうなれば、物産振興会の商品だけでなく、商工会や観光協会に所属する事業者の商品が一度に紹介でき、消費者にとっても見やすいページになるのではないか。

(会 長) 一元的に管理されることが望ましいが、まずは掲載店舗や商品の差異解消等から始めていってはどうか。

(所管課) それぞれの団体の現状を踏まえながら、検討していきたいと思います。

(委 員) 筑紫野市の物産振興のための共通のコンセプトを作ってはどうか。商品や事業者ありきのブランディングではなく、ストーリーやこれまでの歴史、土地の力から生まれてくるコンセプトが同じであれば、力が分散されることなく事業推進できる。市としてそこに投資するべきだと考える。

(会 長) 副会長からご意見いただいているが、物産振興会補助事業の補助金交付要綱があるべきということ。これはほかの補助事業にも言えることだが、それぞれの目的や用途を明確にすることで、適切な成果指標が設定され、補助金の妥当性を測ることができる。

成果指標については、ふるさと納税の実質的な事務は企画政策課が担っているため、「物産振興のための商品開発数」等への変更を検討されたい。また、物産振興会のホームページに、観光協会等への相互リンクを張る等の情報の充実化や連携統一化を図り、消費者の利便性の向上を目指すこと。そして、福岡県商工会連合が実施している「DOCORE（どおこれ）事業」の積極的な活用を検討されたい。

最後に、事務事業評価表の成果コメントの欄だが、指標の推移のみの記載であるため、成果指標の原因分析の内容に変更されたい。

物産振興会補助事業については、会員増を目指すため、他団体との情報共有やつながりの強化と、間口の広い事業者の募集と運営体制について研究・検討するよう助言されたい。

⑦商工振興対策補助事業（商工観光課）

所管課による事業内容の説明

（委員）商工会の加入率の件だが、令和5年度の実績が57.28%で、全国平均の58.2%を下回っている。また、太宰府市は75%、大野城市は62%と本市よりも高い割合のようだが、理由はあるか。

（所管課）本市は事業者数が他市と比べて多く、会員数の増加が割合として見えにくい点もあるかと考えておりますが、加入業種については正確な分析は出来ておりません。

（会長）商工会に加入するメリットが明確な業種とそうでない業種があるのは想像に難くないが、経営相談や保険の関係等、メリットもあるかと思う。成果指標に掲げられている部分なので、商工会と確認し把握されることが望ましい。

（委員）地域活性化商品券の発行についてだが、本市の商品券は、市外在住者も購入することができる。購入は抽選で行われるため、市内在住者が優先的に購入できるというわけでもない。商品券発行の目的は「地域事業者の支援」なのか「物価高騰対策としての市民生活支援」なのか。事業者の支援が目的であれば、市内外在住者問わず同時抽選でよいだろうが、筑紫野市民の生活支援とするならば、筑紫野市民を優先して抽選する等、工夫されてもよいのではないか。

（所管課）地域活性化商品券の発行はおっしゃる通り、地域事業者の活性化と、市民の方の物価高騰対策の両方を目的としているため、販売方法等については、今後の研究課題として商工会に伝えて検討していきたいと考えています。

（委員）過去、Pay Payと連携して、市内の対象事業者でPay Payを利用し商品を購入するとポイントとして還元されるキャンペーンが実施されたが、主体は商工会か。

（事務局）市が物価高騰対策等を目的として事業を実施いたしました。

（会長）商工会には県からの補助金も出ているはずだが、補助基準等はあるのか。また、市の補助金の基準はどのように決められているのか。

（所管課）県からの補助基準は把握できておりませんが、市の補助金額の基準としては、4月1日現在の会員数に1万3千円を掛けた金額としております。

（会長）補足資料の近隣他市の状況をみると、筑紫野市は1万3千円、春日市は1万2千円、大野城市は1万2千3百円、太宰府市は不明、那珂川市が1万円と、本市の補助金基準額の設定は妥当といえる。

副会長からの質問だが、補助金交付要綱はあるのか。ないとすれば制定

し、補助対象事業や注力してほしい事業等を明確にすべきと考える。また、充当率や補助上限等の記載も検討されたい。

また、二日市温泉付近の街路灯に旗を設置した事業があったと思うが、それは市が実施したものか、商工会が実施したものか、観光協会が実施したものか。事業の住み分けはされているのか。

(所管課) 商工会の中にも観光サービスに携わる事業者がおり、街路灯への旗設置は、商工会からの発案で実施されました。JR二日市駅の西口から二日市温泉の通りに誘客するために取り組まれたもので、商工振興の枠内の事業と考えています。市はその事業に関し、街路灯への旗の設置許可を県に申請するという形で携わりました。

(会 長) 商工会の中の観光サービス部会の事業計画に、観光協会等の連携とあるが、事業報告がない。どのようなことで連携しているのか。

(所管課) 筑紫野市祭である、「藤まつり」と「二日市温泉と天拝山観月会」の実行委員会に、商工会と観光協会が所属し祭を運営しています。

「藤まつり」は観光協会が実行委員会の中心となり、「二日市温泉と天拝山観月会」は商工会が実行委員会の中心となっています。実施報告は各実行委員会で作成されているので、商工会の事業計画には掲載していない状況です。

(会 長) 商工会の事業で、出向く商店事業「買援隊」について、現在、西鉄桜台駅付近で開催されているが、別の場所でも開催する等、規模拡大の考えはないか。拡大するとすれば、市として事業補助等を考えてはいないか。

(所管課) 買援隊は、出店を協力してくれる事業者あつての取組となっており、地域の高齢者のために精一杯継続していただいているところです。市としては、公共交通網の利便性向上も含め、様々な形で買い物支援を考えていかなければならないと感じています。

(委 員) 買援隊に参加している事業者は、西鉄桜台駅付近の事業者が中心か。

(所管課) 商工会の中の商業振興部会を中心に、様々な事業者や桜台駅付近の店舗の協力で開催されています。

(会 長) コミュニティ組織が、市と一緒に商工会へ相談に行けば、買援隊に近いものは他地域でも開催可能ということか。

(所管課) 会員自身の事業所を営みながら、商業振興部会の取組として買援隊を実施されております。また、買援隊事業以外にも取組があるので、現在はそれで精一杯だと思われま。

(会 長) 他市の事例では、高齢者の買い物支援のためにコンビニエンスストアが車両で移動販売をしたり、買い物支援のための車両の改造費を市が助成したりと様々な取組がある。市民の需要が明確にあり、商工会の力だけでは難しい部分は、市として何らかの支援ができるような検討をされたい。

⑧観光振興対策補助事業（商工観光課）

所管課による事業内容の説明

（委員）成果指標「観光案内受付件数」の案内内容で太宰府についての案内が一番多い結果となっているが、太宰府市の観光協会と連携して観光客の誘致等は実施されているか。

（事務局）観光案内所がある場所が、太宰府市の入り口となるJR二日市駅にあり、JRを利用して太宰府市に訪れる観光客が太宰府市への行きかたを案内所に問い合わせるため件数としては多くなっています。太宰府市の観光協会との連携については、イベントの共同実施や観光案内所に各々の観光パンフレットを配架するような活動を実施しています。

（会長）太宰府市と筑紫野市を回遊するルートの設定はされていないのか。

（所管課）現状、回遊ルートはありません。筑紫野市内にある交通結節点から観光地までのルートの設定はしていますが、広域的な取組の実施までは至っていません。

（委員）筑紫野市の観光の売りは何か。

（所管課）二日市温泉や天拝山、万葉の歌碑があげられます。そのような観光資源を紹介するパンフレットを作成しており、それぞれの観光地を繋げていく取組を今後実施していきたいと考えています。

（委員）若年層に興味を持たれるか疑問が残る。また、観光地への移動手段としては電車ではなく、車で移動する方が多い印象があるため、駐車場の問題も課題として挙げられる。観光資源として魅力のあるものを発信していく必要がある。

（会長）自治体として観光施策にどの程度力を入れているかによって、観光協会への支援方向性も変わってくる。また、観光協会といっても物産販売をメインとして実施している団体も全国的には見受けられる。太宰府市との回遊ルートを設定することで観光資源の有効的な情報発信が可能になるのではないか。

（委員）万葉の歌碑にQRコードをつけて音声ガイドで歌を詠んでもらう仕組みを取り入れてみてはどうか。また、市内の観光地や自然に触れあえる街路等を観光ルートとして設定し、アプリ等で健康ポイントをためていく仕組みを作り、ためたポイントを二日市温泉で活用できるようにすれば、観光促進に繋がるのではないか。他市町村からの観光客ばかりではなく、地元の人にも興味を持ってもらうような取組を実施しても良いと思う。

（会長）市としての観光資源の売りを作ることも重要であると考えます。

- (委員) 国宝級の観光資源があれば当然売りになると思われるし、市内に所在する企業の工場見学等を実施して観光の売りにしてはどうか。
- (委員) 工場の見学は安全面や衛生面での基準が非常に厳しいと聞いたことがある。とはいえ、工場見学は親子世帯に非常に人気があるとも聞くため、市内の企業を観光資源として活用できれば、観光の売りになると思う。
- (会長) 観光協会の総会資料で確認できる内容別の案内件数のうち、「その他」が最大比率を占めているため分析ができない。案内所の必要性を検証するためにも、その他に含まれる案内内容を知る必要がある。先にも議論したが、観光対策への力の入れ方次第ではあるが、観光案内所ではなく、デジタルサイネージ型の案内板を設置し、AIで観光客の困りごとを解決するような取組を導入することも考え方の一つである。
- (会長) 副会長から「令和5年度収支決算書中、記念事業等のため積立金支出400万円」の用途及び額についての質問があるがいかがか。
- (所管課) 70周年を迎えた際の記念品やモニュメントの作成費用に充てるために積立しています。
- (会長) 歳入が1,200万円に対して積立が400万となると市の補助金が多いのではないかと感じる。70周年というのは、市施行70周年ということか。
- (所管課) 観光協会の70周年です。
- (会長) 現在が設立66年であるならば、残り4年積み立てることになるため、合計2,000万弱を積み立てる予定ということか。
- (所管課) 毎年積み立てるわけではなく、今回の400万で70周年の事業を行う予定と聞いています。本来であれば、会計上の取扱として、積立金ではなく基金に移して処理するべきものであると思いますが、その旨総会内でも指摘があったため、来年度修正する予定と聞いています。
- (会長) その積み立てた400万をホームページの改修や連携事業等の観光協会としての事業充実に充ててはどうか。資金が足りず、事業実施ができないのであれば仕方のないことではあるが、資金があるのであれば、記念事業への積み立てではなく、課題解決に向けて必要な事業を実施してはどうか。
- (所管課) ご指摘のとおり、課題解決に向けた事業実施について、観光協会と協議し検討をしていきたいと思えます。
- (会長) 毎年繰越金が発生しているが、事業実施状況はいかがか。
- (所管課) 本事業の補助金は観光協会の実際の事業費に充当されていることを確認しています。
- (会長) 市の補助金は用途を事業費と決めているということか。

(所管課) その通りです。

(会 長) 副会長からの質問でもあるが、本補助金の交付要綱はあるか。

(所管課) ありません。

(会 長) 補助金を事業費に充当するとなっているとはいえ、要綱がなく、目的や用途が明確ではないと考えられるため、要綱の制定をしていただきたい。本市の観光に係る課題解決に向けて活動してほしいという思いから補助していると推察されるため、観光協会には適切な補助金額で事業実施していただきたい。

(会 長) 事業概要説明書に記載されているが、事業の目的が観光協会の自立を促進することだとすると成果指標が変わると思うがどうか。

(所管課) 協会の自立というのは最終的な目標であって、現時点では活動の促進を目的としているため、表現の修正をしたいと考えています。

(会 長) 自立を促進し、自主的な運営が可能となれば、市の負担を減らすことができる。もし観光協会の自立促進ではなく、活動の促進が目的となれば、直営での事業推進や専門的な民間企業の人材活用、補助ではなく委託方式等も考えられるのではないか。

(所管課) あくまでも、現在の目標が活動の促進ということであって、将来的には観光協会に自立して運営してもらうことが目標です。

(会 長) そうだとするならば、自立した運営ができていないか測定可能な「自主財源割合」を成果指標として追加してはどうか。

(会 長) 副会長から日本遺産「西の都」に関する質問をいくつか預かっている。「日本遺産古代日本の「西の都」の立派なHPがあるが、市HPの観光のページ内で見つけることができなかった。観光モデルコースとして「日本遺産『西の都』を歩くコース」は紹介されているが、そもそも日本遺産「西の都」とは何かの説明もなく、全体的にHP等での情報発信能力が弱い印象がある。市のHP等でも情報発信を充実すべきである。また、観光協会のHPについても、補助金でWEBコンサル等を活用してページの改修を行う等、情報発信能力の向上を図ってはどうか。」

(所管課) 「西の都」の情報は市のHPには掲載しています。ルートについても、JR二日市駅西口が開設されたことを契機に、新たな観光案内版の整備や、既存の案内板へも「西の都」の情報や観光ルートを確認できるQRコードを掲載する等しています。効果的な情報発信については、今後とも検討していきます。

(会 長) 市のHPの作成は自由度が少ないため、かわりに観光協会のHPで分かりやすく作成してもらうのも一つの方法である。

(会 長) 観光協会への補助金の額については、今後の観光施策への力の入れ方にもよるが、先ほどの積立金の話を踏まえると、実施する事業の規模に応じて、適切な補助金額を検証していく必要もあると考える。

(委 員) 筑紫野市の観光案内所では太宰府についての案内が多いため、一部、太宰府の観光案内の役割を担っていると考えられるのではないかと。太宰府側へ金銭的な負担を求める等の相談はできないのか。

(会 長) 太宰府への観光客は外国の方も多と思われるが、外国語での案内は言語の壁があり困難であるため、例えば、多国籍語に対応したデジタルサイネージを導入する際に、太宰府市の観光情報を一緒に掲載することを条件に事業費を按分する等の取組は可能か。

(所管課) J R 二日市駅が筑紫野市にあるという立地的な要因が大きいことに加えて、観光案内についても、太宰府市から依頼を受けて実施しているわけではありませので、現時点ではおっしゃられているような負担を要求することについては難しいと考えます。

(委 員) 二日市温泉と太宰府市の観光資源との間に関連性はあるか。

(所管課) 筑紫野市にある天拝山と菅原道真は関連性があるといわれていますが、二日市温泉との関連は少ないと思われま。

(委 員) 市外の人の中には二日市温泉が筑紫野市にあると知らない人が多い。それぞれの観光資源の間にストーリー性があれば、自ずと回遊性が生まれてくると考える。

(会 長) 観光地の魅力を伝える物語的な動画を観光協会に作成してもらうことも一つの方法である。

5. 事務連絡について

事務局より次回会議の開催日程等を説明。

6. 閉会

12:09 閉会。